

小学生の社会的スキルと友人関係における排他性・学校適応感との関連

三 島 浩 路¹⁾Relationships between Social Skills, Exclusiveness of Friendship,
and School Adaptation among Elementary School Students

MISHIMA Koji

要 約

本研究では小学5・6年生約140名を対象に、社会的スキル・学校適応・友人関係における排他性に関する調査を行い、収集したデータを使用して男女別に共分散構造分析を実施した。分析の結果、男子に関しては、社会的スキルが学習態度と友人関係に関連していることが示唆された。女子に関しては、社会的スキルが学習態度と総合的適応感覚に関連していることが示唆された。また、男女に共通して、友人関係の状況が、排他性を構成する二つの因子に関連し、排他性を構成する因子の一つである「独占的な親密関係指向」が、心身の健康状態に負の影響を与える可能性があることも示唆された。

キーワード：社会的スキル 友人関係 排他性 学校適応

1 問 題

本研究は、小学校高学年の社会的スキルが、学校生活に対する適応感や友人関係のあり方にどのような影響を与える可能性があるのかを探索的に考えようとするものである。

これまでの研究から、社会的スキルが欠ける子どもは、学校での生活についていけなくなることが多い(Ullman, 1975)など、適応上の様々な問題が生じるという指摘がある(Gresham, 1981)。前田(1998)は、小学2年時から4年時まで縦断的な調査を行い、小学2年時では「人気児」ではなかったが、小学4年時で「人気児」になった児童は、小学2年時に比べ小学4年時の方が攻撃性を有意ではないが低下させ、社会的コンピテンス(社会的スキルと類似のもの)を有意に増加させた。逆に、小学2年時では「拒

否児」ではなかったが、小学4年時では「拒否児」になった児童は、小学2年時に比べ小学4年時の方が攻撃性を有意ではないが増加させ、社会的コンピテンスを有意に減少させたことを報告しており、社会的スキルと仲間から受ける拒否的な態度との関連を示唆している。

クラスメイトから拒否的な態度をとられ、学級内で孤立することは、様々な問題を生じさせる。学級内で孤立している児童・生徒の中には、学校生活に対する適応感が低い児童・生徒が多い(Parker & Asher, 1987; Rubin, Bukowski, & Parker, 1998)。また、学級内で他の児童・生徒から排斥されることが、反社会的な行動傾向(Vitaro, Brendgen, & Tremblay, 2000)や抑うつ傾向(Gazelle, & Ladd, 2003)の強さと関連するという指摘もある。

こうしたことから、社会的スキルの欠如は、学習活動や友人関係に影響を与え、学校生活に対する適応感にも、否定的な影響を与えることが予想できる。

1) 中部大学現代教育学部児童教育学科

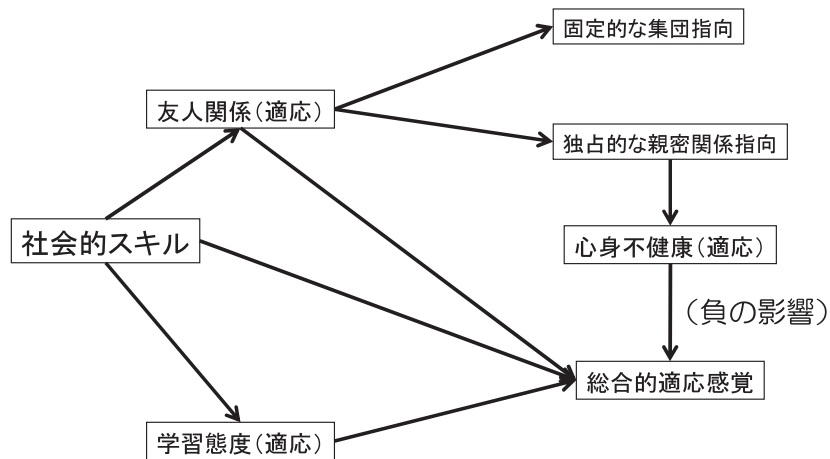


Figure1 本研究で検討を試みるモデル

また、これとは逆に、優れた社会的スキルを活用することができる子どもは、良好な友人関係を形成・維持していることが予想できる。

学校生活の中で子どもたちは様々なストレスを感じているが(三浦・坂野, 1996)、親しい友人からサポートを受け、ストレスの低減を図ることができる(山口・水野・石隈, 2004)など、親しい友人がいることは、児童・生徒の不安や抑うつ傾向を抑える上で大きな役割を果たしている(Buhrmester, 1992)。このような理由から、良好な友人関係を形成・維持することは、学校生活に対する適応感を高める方向で機能する可能性がある。

ところで、友人との良好な関係は親密な関係と考えられる。そうした親密な関係は、その関係に属さない者に対しては排他的な関係となることが多い(三島, 2004)。小学校高学年の友人関係における排他性に関しては、「固定的な集団指向」と「独占的な親密関係指向」の2因子から構成されるとし、この2因子からなる仲間集団の排他性を測定する仲間集団指向性尺度が開発された(三島, 2008)。そして、排他性を構成する2つの因子の中でも、「独占的な親密関係指向」を強めた高学年女子児童は心身の健康を悪化させ、学校生活に対する適応感を低める可能性があることが示唆された(三島, 2007)。また、中学2・3年生を対象に行った調査においても、「独占的な親密関係指向」と心身の不健康との間には有意な正の相関がみられた(三島・橋本, 2009)。

こうしたことから、良好な友人関係を維持している児童は、友人との親密性を高めた結果、友人以外

の者に対しては排他的になりやすく、友人関係の良好さは、友人以外の者に対する排他性の高さとなって現れ、そうした排他性の高さは、「固定的な集団指向」や「独占的な親密関係指向」を強化するが、「独占的な親密関係指向」は、心身を不健康にし、学校生活に対する適応感を低下させる方向で機能すると考えられる。

本研究では、以上のような考えをもとにして、Figure1に示すモデルを作成し、モデルの妥当性について探索的に検討する。

2 方法

(1) 調査対象と時期

A県内のB市立小学校に在籍する5・6年生(男子68名、女子76名 合計144名)を対象に2009年7月に調査を実施した。なお、調査の実施にあたっては、調査内容が児童の人権を損ねたりすることがないように、当該校の校長先生をはじめ多くの先生方にご協議いただいた。調査は、朝の会の時間を利用して学級担任が学級単位で実施した。実施に要した時間は約10分であった。

調査結果に関しては、それぞれの学級担任等にフィードバックして児童支援に活用した。調査対象者の中で、欠損値があったものは分析から除外したため、分析に用いたのは133名(男子64名・女子69名)のデータである。

(2) 質問紙の構成

以下の内容について5件法で回答させた。総合的適応感覚・友人関係（適応）・学習態度（適応）・心身の不健康（適応）に関しては、小学校高学年用に開発された階層型学級適応感尺度（三島、2006）の項目を使用した。友人関係の排他性に関しては、仲間集団指向性尺度（三島、2008）の項目を使用した。社会的スキルの測定項目に関しては、現職の小学校教師3名と協議し、学校生活に大きな影響を与える可能性が高い行動を抽出し、そうした行動を4項目に絞り込んだ。

A：総合的適応感覚

R：逆転項目

A1 学校に来るのは楽しい。

A2 学校が休みの日は、たいくつだ。

A3 学校に行きたくないと思うことがある。(R)

B：友人関係（適応）

B1 困ったことがあったら、友だちに相談する。

B2 友だちには、自分の秘密など何でも話することができる。

B3 友だちから自分は大切にされている。

B4 友だちと一緒にいると楽しい。

B5 友だちのことを大切にしている。

D：学習態度（適応）

D1 国語や算数など、学校で受ける授業は楽しい。

D2 授業中、先生の話をよく聞いている。

D3 国語や算数などの勉強は得意な方だ。

D4 授業中、近くの席の子と、授業に関係のない話をしている。(R)

F：心身不健康（適応）

F1 自分は、いやなことなどがあるとくよくよ悩む方だ。

F2 自分は、落ち込むことが多い。

F3 おなかが痛くなったり、げりをしたりする。

G：友人関係の排他性（独占的な親密関係指向）

G1 新しい友だちをつくるとき、今、仲良くしている友だちのことが気になる。

G2 自分のいちばん大切な友だちが、ほかの子と楽

しそうに話をしているのを見ると、嫌な気分になる。

G3 朝、学校に来るとき、校門のところで仲良しの友だちと待ち合わせることもある。

G4 仲良しの友だちと同じ鉛筆や消しゴム、下じきなどを持ちたい。

G5 自分のいちばん大切な友だちを、ほかの子にとられそうで心配になることがある。

G6 仲良しの友だちと内緒話をしたことがある。

G7 仲良しの友だちと交換日記をしたり、手紙のやり取りをしたりしたことがある。

G8 仲良しの友だちと一緒にトイレに行くことがある。

H：友人関係の排他性（固定的な集団指向）

H1 仲間と話をする方が、仲間ではない子と話をするよりも楽しい。

H2 仲良しの友だちだけで、かたまって一緒にいると楽しい。

H3 理科の実験などグループで行う学習は、仲良しの友だちだけで一つのグループをつくりたい。

H4 学校で、休み時間に話をしたりして遊ぶ相手は決まっている。

H5 自分の気持ちの中で、自分の仲良しの友だちと友だちではない子を分けている。

H6 遠足や社会見学は、仲良しの友だちだけで一つのグループをつくりたい。

H7 遊び相手がいつも同じだとつまらない。(R)

S：社会的スキル

S1 授業中、手を挙げて自分の意見を発表する。

S2 みんなの意見を聞き、グループでの話し合いの司会を上手に行うことができる。

S3 「おはようございます」などと大きな声であいさつをする。

S4 友だちが話をしている中に割り込んで、嫌な雰囲気にしてしまうことがある。(R)

Table1 社会的スキル関連4項目の因子分析

内 容	F1	F2
みんなの意見を聞き、グループでの話し合いの司会を上手に行うことができる。	.81	-.06
授業中、手を挙げて自分の意見を発表する。	.73	.19
「おはようございます」などと大きな声であいさつをする。	.59	-.17
友だちが話をしている中に割り込んで、嫌な雰囲気にしてしまうことがある。	-.04	.32
F2との相関	.06	

3 結果

(1) 社会的スキル関連4項目の因子分析

社会的スキルに関連する4項目は、本調査のために新たに作成した項目であることから、内的整合性を確認するために因子分析（主因子法・プロマックス回転）を行った（Table1）。その結果、1つの項目（S4 友だちが話をしている中に割り込んで、嫌な雰囲気にしてしまうことがある）を除いた3項目のまとまりが比較的良好であったため（ $\alpha = .74$ ）、この3項目の素点の平均値を「社会的スキル」尺度得点とした。

(2) 尺度得点の男女差

「社会的スキル」尺度得点以外の尺度得点に関しても、関連する項目の素点の平均値を尺度得点として利用した（Table2）。7つの尺度得点の平均値と標準偏差を男女別に求め比較した結果、「心身不健康」尺度得点（ $t = 2.51$ 、 $df = 131$ 、 $p < .05$ ）、「独占的な親密関係指向」尺度得点（ $t = 5.72$ 、 $df = 131$ 、 $p < .001$ ）が男子に比べて女子の方が有意に高い。この結果は、先行研究の結果（三島、2006；三島、2008）と一致するものであり、尺度得点の中で男女間にちがいがみられたことから、男女別に以降の分析を行うこととした。

(3) モデルの妥当性の検討

Figure1 に示したモデルを男女別に検討するために、男女のデータを別々にして共分散構造分析を行った（Figure2・3）。男女に共通して AGFI の数値が若干低い、この結果を基にして男女別に検討する。なお、尺度得点の相関係数を Table3 に示す。

ア 男子の結果

男子に関しては、社会的スキルが学習態度と友人関係の両面に影響し、学習態度は、総合的適応感覚に直接影響するものの、友人関係は総合的適応感覚に直接影響しないことが示唆された。

友人関係に関する適応状況は、友人関係の排他性に影響し、排他性を構成する「独占的な親密関係指向」を通して心身不健康に影響し、心身の不健康が総合的適応感覚に負の影響を示す可能性があることも示唆された。

イ 女子の結果

女子に関しては、社会的スキルは友人関係には影響せず、学習態度や総合的適応感覚に直接影響することが示唆された。

友人関係に関する適応状況は、総合的適応感覚と友人関係の排他性に影響し、排他性を構成する「独占的な親密関係指向」を通して心身不健康に影響する可能性が示唆された。しかし、心身の不健康は総合的適応感覚に影響しない可能性があることも示唆された。

Table2 7つの尺度得点の男女別平均と標準偏差

尺 度	男子 (n=64)		女子 (n=69)		t値 (df=131)
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
総合的適応感覚	3.29	0.75	3.22	0.74	0.54
友人関係 (適応)	3.70	0.72	3.88	0.70	1.48
学習態度 (適応)	3.71	0.65	3.54	0.66	1.53
心身不健康 (適応)	2.94	0.79	3.29	0.83	2.51
独占的な親密関係指向	2.48	0.63	3.14	0.69	5.72
固定的な集団指向	3.69	0.67	3.75	0.67	0.55
社会的スキル	3.41	0.68	3.37	0.93	0.28

Table3 7つの尺度得点間の相関係数 (男女別)

尺 度	Fa	Fb	Fd	Ff	Fg	Fh	Fs
Fa: 総合的適応感覚		.40**	.43***	-.36**	-.08	-.02	.37**
Fb: 友人関係 (適応)	.47***		.23	-.11	.38**	.52***	.52***
Fd: 学習態度 (適応)	.16	.06		-.02	-.21	-.05	.32**
Ff: 心身不健康 (適応)	-.22	-.09	.10		.30*	.12	.09
Fg: 独占的な親密関係指向	.02	.41***	-.06	.35**		.48***	.27*
Fh: 固定的な集団指向	.08	.55***	-.15	.16	.64***		.24
Fs: 社会的スキル	.41***	.12	.44***	-.09	.09	-.12	

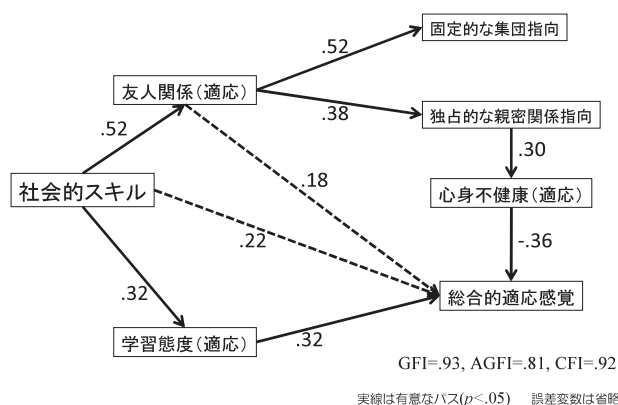
上: 男子 下: 女子 *: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$ 

Figure2 社会的スキルと排他性・学校適応感との関連 (男子)

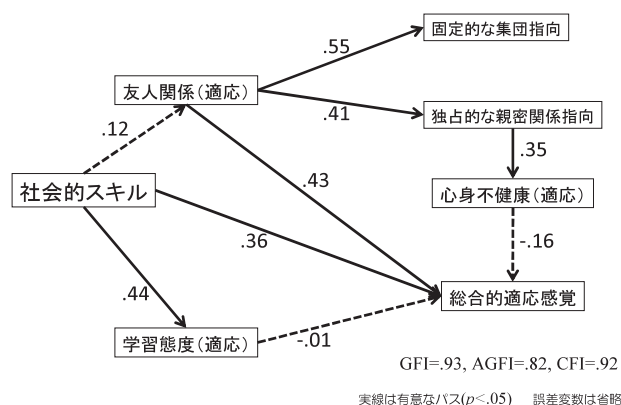


Figure3 社会的スキルと排他性・学校適応感との関連 (女子)

4 考 察

本研究の結果に関しては、特定の小学校のデータをもとにしたものであることから、その解釈には自ずと限界があり、調査対象となった小学校の状況に依存する部分があることから、限定的に理解することが必要である。このような前提の下で考察を行

う。

本研究で用いた社会的スキルに関する尺度は、どちらかといえば主張性に関連する学習スキルに近いものが多く、そのため、男女に共通して社会的スキルが学習態度に有意な影響を与えたのではないだろうか。

男子に関しては、社会的スキルが友人関係に影響

を与えているのに対して、女子に関してはこうした影響はみられなかった。その原因として、今回の調査で社会的スキルを測定するために用いた項目の影響が考えられる。今回の調査では、「授業中、手を挙げて自分の意見を発表する」など主張性に関連する項目を社会的スキルを測定するために用いた。同性の友人との関係において、男子の場合には自分自身の独自性を主張したり現実的な達成を目的に主張したりする会話が多くのに対して、女子の場合には仲間集団の維持を目的とした会話が多くの（Leaper, & Smith, 2004）。そのため、男子の仲間集団においては、主張性にかかわるスキルがより重要となり、主張性スキルが優れた男子は、友人関係においても優位な立場に立つことが多いなどの理由で、当人にとって適応的な友人関係を形成しやすいのではないだろうか。一方、女子に関しては、主張性以上に平等性を求める傾向が強いという指摘もある（Goodwin, 2006）ことから、主張性という要因が友人関係に与える影響はより限定的であり、こうした違いが、社会的スキルと友人関係の関連に、男女間で違いを生じさせたのではないだろうか。

男女に共通して、友人関係に関する適応状況は排他性に影響し、排他性を構成する「独占的な親密関係指向」が心身の不健康に影響することが示唆された。特定の友人との間に独占的な親密関係を強めることは、特定の友人に対して常に配慮し続ける状態となる（三島、2007）など、緊張感の高い状態が続く。こうした緊張感の継続が、「独占的な親密関係指向」と、心身の不健康との間に関連を生じさせた原因になっている可能性もある。

ところで、「学校生活の楽しさ」に関連する総合的適応感覚に対して、男子は学習態度と心身不健康が有意な影響を与えたのに対して、女子は社会的スキルと友人関係が有意な影響を与えた。この結果は、学校生活に対する楽しさを規定する要因として、男子の場合には学習や心身の健康状態が、女子の場合には主張性を中心とした社会的スキルや友人関係がより大きな影響を与える可能性があることを示唆するものである。しかし、男女間のこうした違いは、今回、調査の対象とした小学校にみられる特異的なものである可能性も否定できない。今後は、より多くのデータを収集・分析するなどして、この結果が

一般的なものかどうかについて検討したい。

文献

- Buhrmester, D. (1992). The developmental courses of sibling and peer relationships. In F. Boer, & J. Dunn (Eds.), *Children's sibling relationships: Developmental and clinical issues* (pp. 19-40). Hillsdale, NJ: Erlbaum.
- Gazelle, H., & Ladd, G. W. (2003). Anxious solitude and peer exclusion: A diathesis-stress model of internalizing trajectories in childhood. *Child Development*, 74, 257-278.
- Goodwin, M. H. (2006). *The hidden life of girls: Games of stance, status, and exclusion*. Blackwell Publishers Inc.
- Gresham, F. M. (1981). Assessment of children's social skills. *Journal of School Psychology*, 19, 120-133.
- Leaper, C., & Smith, T. A. (2004). A meta-analytic review of gender variation in children's language use: Talkativeness, affiliative speech, and assertive speech. *Developmental Psychology*, 40, 993-1027.
- 前田健一 (1998). 子どもの仲間関係と社会的行動特徴に関する縦断的研究 愛媛大学教育学部紀要 (教育学部), 44, 61-77.
- 三島浩路 (2004). 友人関係における親密性と排他性—排他性に関連する問題を中心にして— 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 (心理発達科学), 51, 223-231.
- 三島浩路 (2006). 階層型学級適応感尺度の作成—小学校高学年用— カウンセリング研究, 39, 81-90.
- 三島浩路 (2007). 小学校高学年児童の友人関係における排他性・親密性と学級適応感との関連 東海心理学研究, 3, 1-10.
- 三島浩路 (2008). 仲間集団指向性尺度の作成—小学校高学年用— カウンセリング研究, 41, 129-135.
- 三島浩路・橋本秀美 (2009). 友人関係の排他性と学級適応感 日本教育心理学会第51回総会発表論文集, 47.
- 三浦正江・坂野雄二 (1996). 中学生における心理的ストレスの継時的変化 教育心理学研究, 44, 368-378.
- Parker, J. G., & Asher, S. R. (1987). Peer relations and later personal adjustment: Are low-accepted children at risk? *Psychological Bulletin*, 102, 357-389.
- Rubin, K. H., Bukowski, W. M., & Parker, J. G. (1998). Peer interactions, relationships, and groups. In W. Damon, & N. Eisenberg (Eds.), *Handbook of child psychology: Vol. 3. Social, emotional, and personality*

development (5th ed., pp. 619-700). New York: Wiley.

Ullman, C. A. (1975). Teachers, peers, and tests as predictors of adjustment. *Journal of Educational Psychology*, 48, 257-267.

Vitaro, F., Brendgen, M., & Tremblay, R. E. (2000). Influence of deviant friends on delinquency: Searching for moderator variables. *Journal of*

Abnormal Child Psychology, 28, 313-325.

山口豊一・水野治久・石隈利紀 (2004). 中学生の悩みの経験・深刻度と被援助志向性の関連—学校心理学の視点を生かした実践のために— *カウンセリング研究*, 37, 241-249.

本研究は、日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（C）課題番号 21530707）の助成を受けた。

受付日 2009 年 9 月 30 日

受理日 2009 年 11 月 18 日

Abstract

This study examined social skills, school adaptation, and exclusiveness of friendship among 140 fifth- and sixth graders. The collected data of each gender were analyzed separately, employing an analysis of covariance structures. Results indicated that Social Skill was related to Learning Manner and Friendship among boys, while Social Skill of girls was found to be related to A Sense of General Adaptation as well as to Learning Manner. The results further showed that the state of Friendship was related to two factors that constitute Exclusiveness, and A Tendency of Exclusive Intimacy, which was one of the Exclusiveness components, was found to have potential negative effects on the state of psychosomatic health.

[Keywords] social skill, friendship, exclusiveness, school adaptation